

全国の20代～70代の男女1,500名を対象に調査

第12回“葬儀”に対する意識・実態調査

- 自分自身の葬儀については6割以上が「してもらいたくない」と回答しました。「葬儀をしてもらいたくない」理由としては、葬儀の手間や経済的な要因以上に「必要性を感じない」との回答が多く寄せられました。
- 一方、配偶者や親といった近親者については約7割が「葬儀をしたい」と回答しています。さらに、7割弱が「葬儀に出席して良かった」と回答しており、また葬儀に出席したい大切な人の上位に「友人」があがっています。家族葬など小規模な葬儀が増える昨今でも、大切な人とのお別れの場が重要だと考えられていることがわかりました。

名古屋市内を中心に、北海道、関東、中部、関西地方で葬祭事業とフランチャイズ事業を展開する株式会社ティア（本社：愛知県名古屋市北区、代表取締役社長：富安 徳久）は、全国の20代～70代の男女1,500名を対象に、“葬儀”に対する意識と実態について、インターネット調査を行いました。その調査結果がまとまりましたので、下記にてご案内いたします。

『第12回 “葬儀”に対する意識・実態調査』トピックス

1. 葬儀の実施意向について

- 自分の葬儀を「してもらいたい」と回答した人は33.4%と3年連続で減少。特に60代は一昨年調査と比べ11.6ポイントの大幅減。
- 自分の葬儀を「してもらいたくない」と回答した人の62.3%が「(自分の)葬儀をする必要性を感じない」と回答。「手間がかかり面倒だから」や「お金をかけたくないから」という理由より約20ポイント高い。
- 親や配偶者といった近親者の葬儀については約7割が「葬儀をしたい」意向を示す。その理由として半数以上が「気持ちに区切りをつけたいから」「供養のために必要な儀式だから」と回答。

2. 葬儀に対する価値観について

- 67.3%が「葬儀に出席して良かった」と回答。そのうちの半数以上が「最期のお別れができた」ことを評価。
- 大切な人の葬儀は「必ず出席したい」「どちらかといえば出席したい」を合わせた「出席したい」の回答は64.9%。中でも「友人」は、親や配偶者など近親者の次に出席したい対象者である。

3. 終活の実施状況について

- “終活”に取り組んでいる人が、終活を始めたきっかけの多くは「周囲への配慮」。
- 取り組みについては「エンディングノート作成」や「家族との話し合い」「生前整理」といった、最期の時に関係する方々に向けた具体的な活動を行っている人が多いことが明らかに。

本リリースに関するお問い合わせ

株式会社ティア 広報事務局 担当:杉浦 TEL:03-6260-4860 FAX: 03-6260-6653

1. 葬儀の実施意向について その1

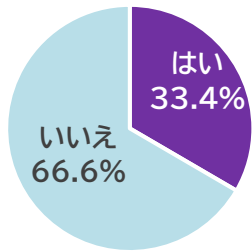
Q.「自分が亡くなった後、葬儀をしてもらいたいですか？」（表1）

全年代の合計では「はい（＝葬儀をしてもらいたい）」と回答した割合が、前回調査より4ポイント減少。過去3年間の推移でも5.5ポイント減少しています。この結果に大きく影響しているのが、60代の11.6ポイント減と70代の8ポイント減です。昭和時代の弔いの風習を受け継ぐ年代にも、葬儀に対する意識の変化が訪れていると考えられます。

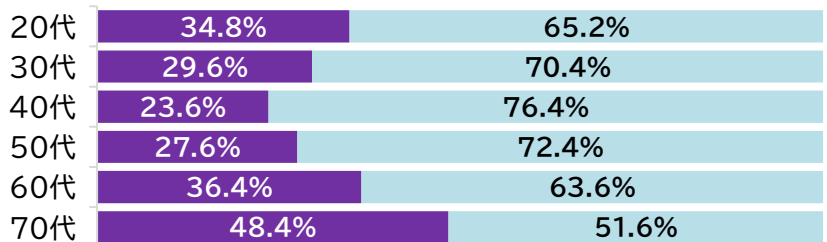
また、自身の葬儀を望まない傾向が増す背景には、手間や経済的負担があることがわかりました。同時に、「葬儀をしてもらいたい」人・「葬儀をしてもらいたくない」人ともに「葬儀の必要性」に関する項目への回答が多いことから、全体を通して葬儀に対する関心の高さがうかがえます。

表1: 自分が亡くなった後、葬儀をしてもらいたいですか？

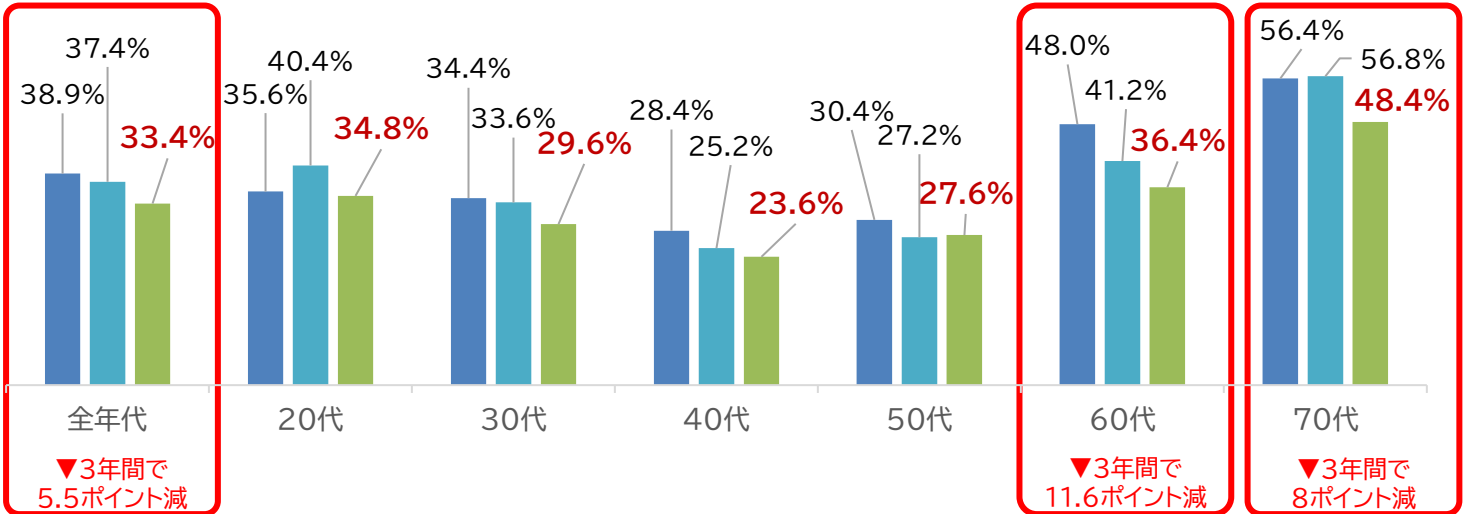
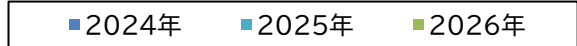
● 全年代の合計 (N=1,500)



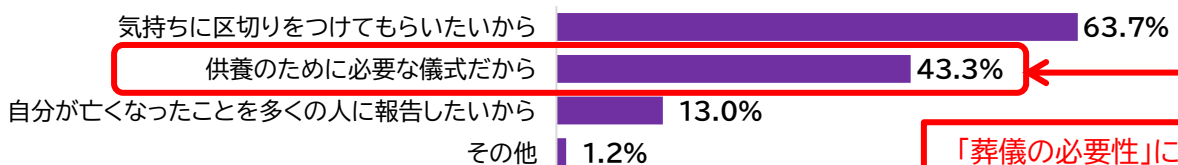
● 年代別で見た結果 (各年代ともにN=250)



● 「はい」と答えた割合の3年間の推移 (各年代N=250)

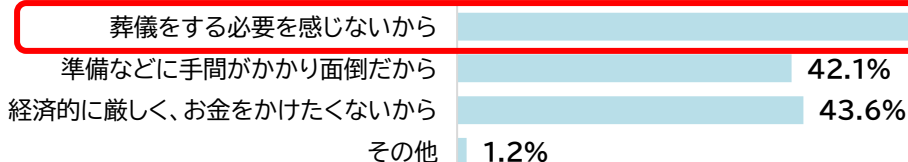


● 表1の問いで「はい（＝葬儀をしてもらいたい）」と答えた人の理由 (複数回答、N=501)



「葬儀の必要性」に関する項目への回答が多い

● 表1の問いで「いいえ（＝葬儀をしてもらいたくない）」と答えた人の理由 (複数回答、N=999)



手間や経済的な理由より約20ポイント上回っている

1. 葬儀の実施意向について その2

Q. 配偶者や親が亡くなった後「葬儀をしたいと思いますか？」（表2・3・4）

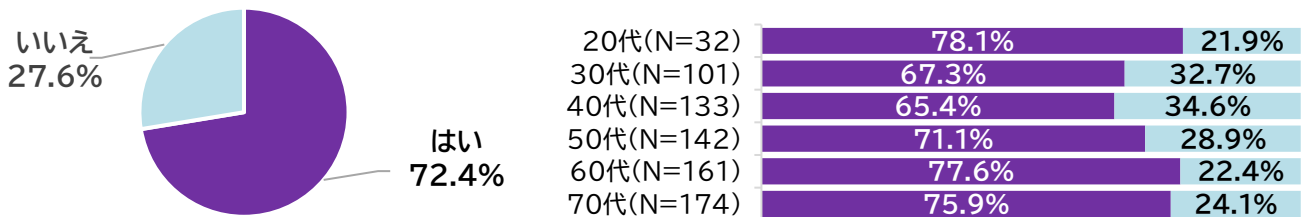
自分自身の葬儀に対する意向とは対照的に配偶者や親といった近親者については、約7割が「はい(=葬儀をしたい)」と回答しています。その理由について「供養のために必要な儀式だから」との回答が、配偶者・親ともに半数を超え、近親者に対する葬儀の必要性は依然として高いことがうかがえます。

世代別で見ると60代70代は、配偶者・親ともに「はい(=葬儀をしたい)」の回答が8割前後と高いことがわかりました。一方20代では、配偶者については78.1%が「はい(=葬儀をしたい)」と回答しており、年代別で最も多いのに比べ、親については66.4%と他の年代より少ない結果となりました。

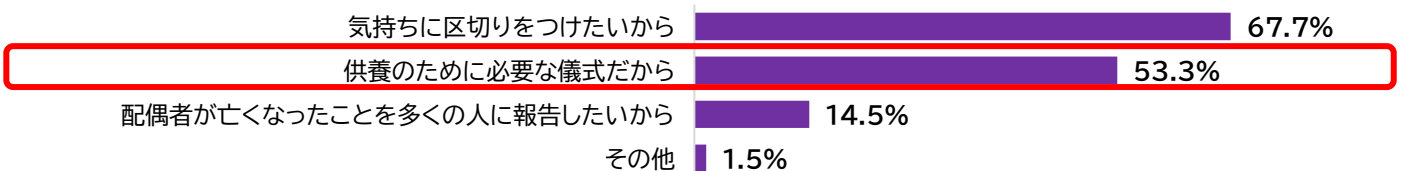
30代40代は、配偶者・親ともに「はい(=葬儀をしたい)」の回答が少ないことがわかります。その理由として、葬儀をしたくない(=いいえの回答)理由を世代分布で表したグラフ(表4)から、「お金をかけたくないから」「手間がかかり面倒だから」が他年代に比べ比較的多く、働き盛り・子育てといった背景が葬儀への意識に影響していることが推察されます。

表2: 配偶者が亡くなった後、配偶者の葬儀をしたいと思いますか？

● 全年代の合計（配偶者がいる人、N=743） ● 年代別で見た結果



● 表2の問いで「はい(=葬儀をしたい)」と答えた人の理由（複数回答、N=538）



● 表2の問いで「いいえ」(=葬儀をしたくない)と答えた人の理由（複数回答、N=205）

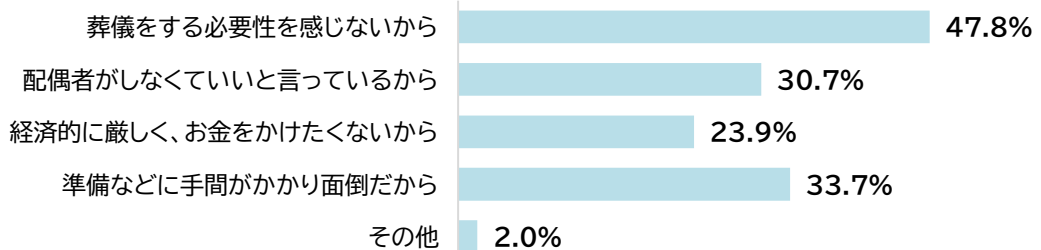
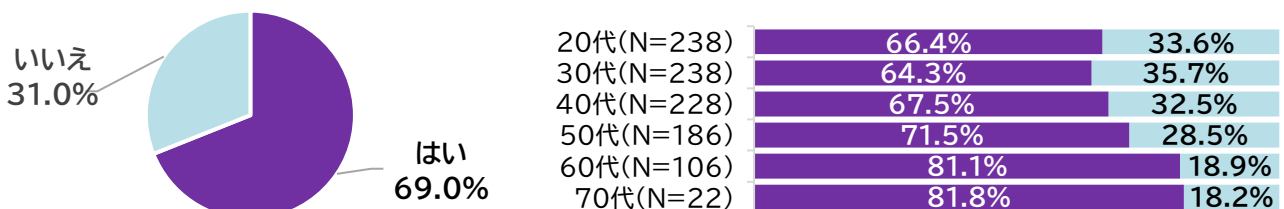
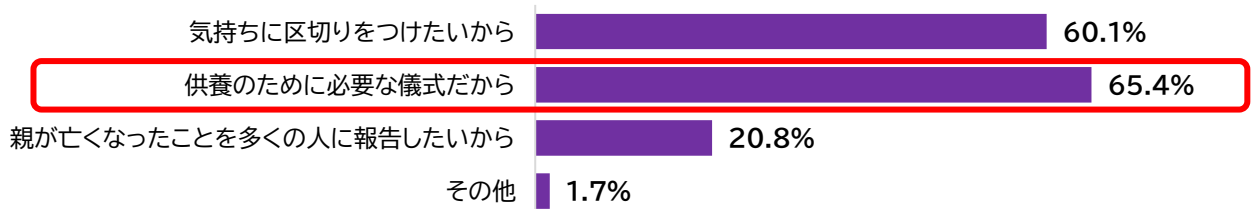


表3: 親が亡くなった後、親の葬儀をしたいと思いますか？

● 全年代の合計（親が存命の人、N=1,018） ● 年代別で見た結果



● 表3の問いで「はい」(=葬儀をしたい)と答えた人の理由 (複数回答、N=702)



● 表3の問いで「いいえ」(=葬儀をしたくない)と答えた人の理由 (複数回答、N=205)

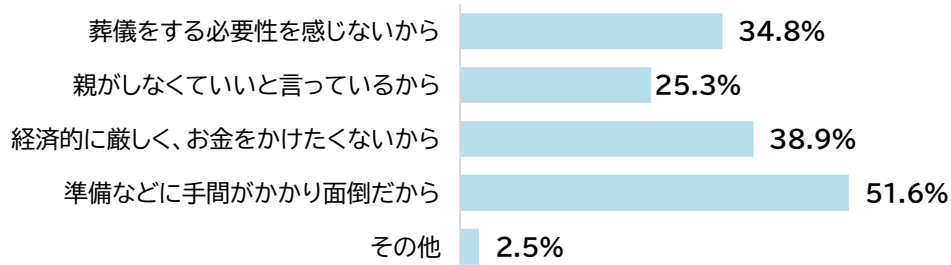
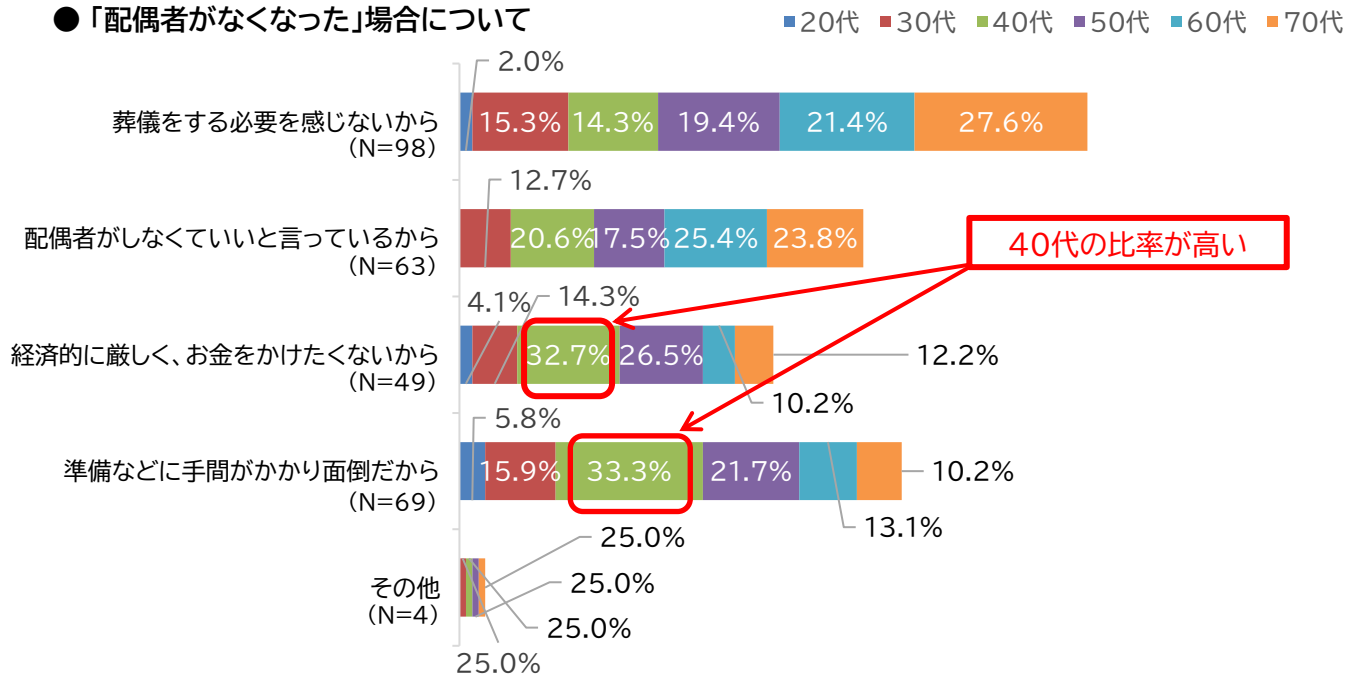
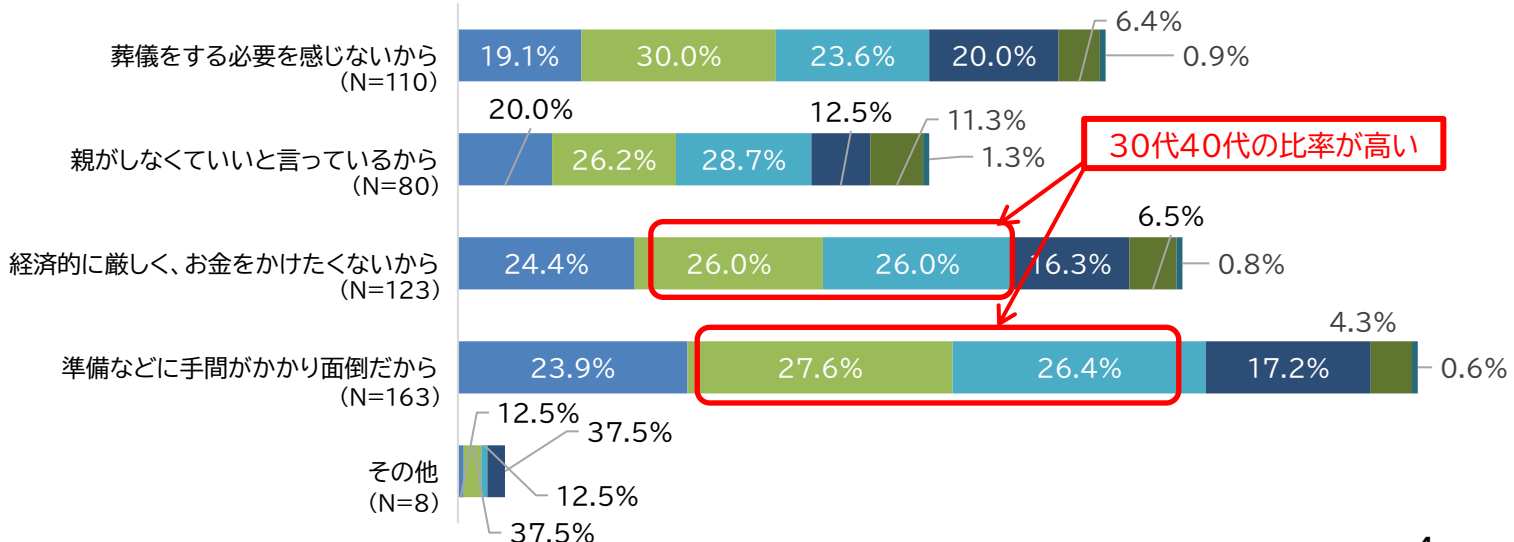


表4: 「いいえ(=葬儀をしたくない)」理由ごとに見た世代分布

● 「配偶者がなくなった」場合について



● 「親がなくなった」場合について



2. 葬儀に対する価値観について

Q.「これまでの葬儀に出席して良かったですか？」(表5)

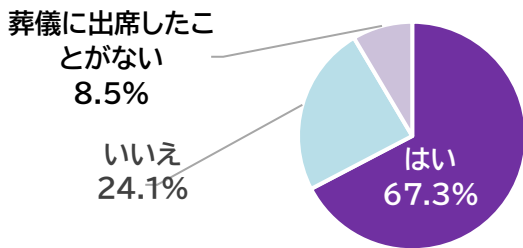
7割弱が「葬儀に出席して良かった」と回答しています。その理由として「最期のお別れができたから(57.5%)」が最も高く、葬儀に参列したことで真摯に“良かった”と実感している様子が見えます。

Q.「自分にとって大切な人の葬儀には出席したいですか？」(表6)

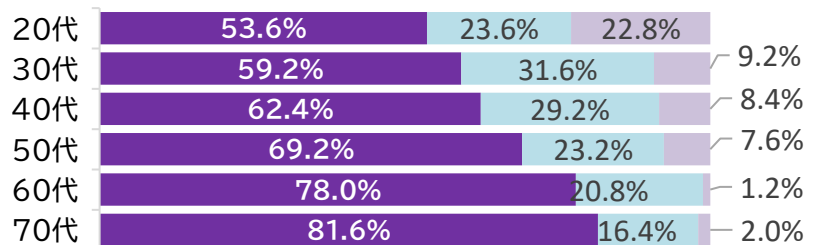
「必ず出席したい」「どちらかといえば出席したい」といった「出席したい」の回答が64.9%と、大切な人の葬儀は重要であることがわかります。中でも「友人」の葬儀に出席したいとの回答は5割を超えており、家族葬など参列者が限定されることが増えた近年においても、「友人=大切な人」とのお別れの場も重要であることが浮き彫りになったと考えます。

表5: これまでの葬儀に出席して良かったですか？

● 全年代の合計 (N=1,500)



● 年代別で見た結果 (各年代ともにN=250)



● 表4の問いで「はい」(=葬儀に出席して良かった)と答えた人の理由 (複数回答、N=1,010)

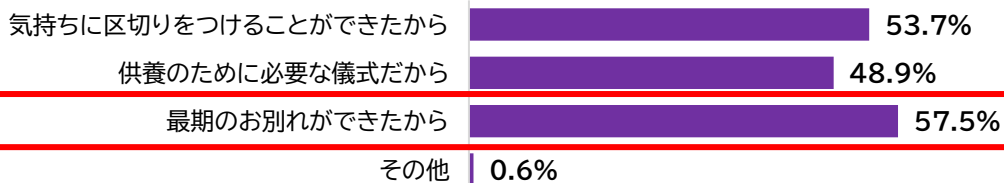
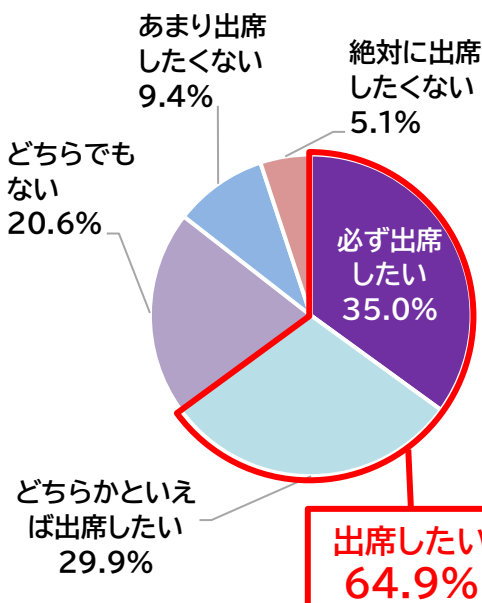
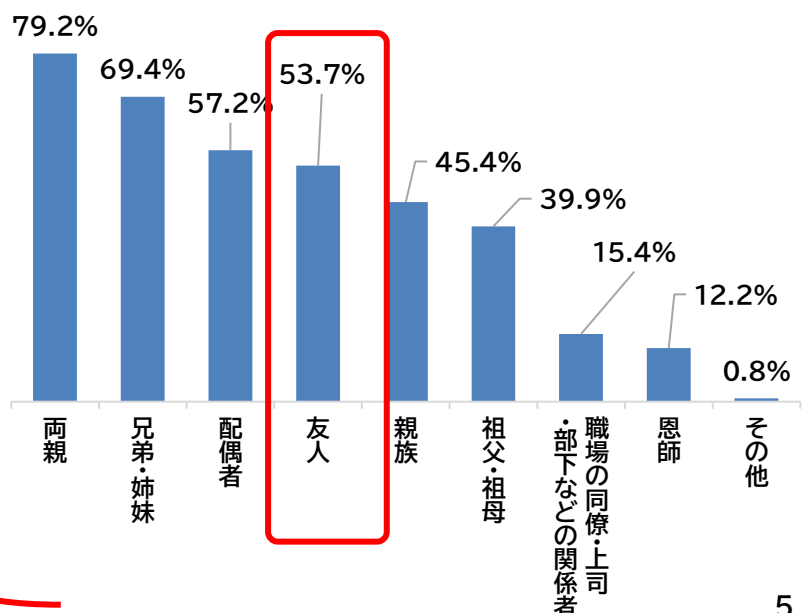


表6: 自分にとって大切な人の葬儀には出席したいですか？ (N=1,500)



● 表5の問いで「葬儀に出席したい」と答えた人が思い描く対象者 (複数回答、N=974)



3. 終活の実施状況について

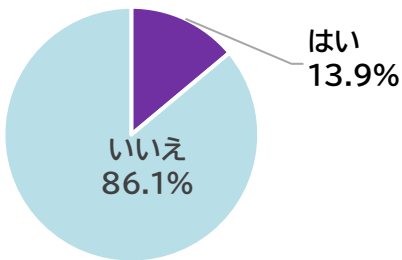
Q.「あなたは現在ご自分の最期の準備(いわゆる終活)をしていますか？」(表7・8・9)

終活に取り組んでいる人は約14%でした。きっかけは「残された人の苦労を軽減したいから(42.1%)」「迷惑をかけたくないから(37.3%)」と周囲への配慮がうかがえる結果となりました。

取り組み内容として「エンディングノートの作成」や「家族との話し合い」「生前整理」といった、最期の時に関係する方々に向けた具体的な活動を行っている方が多いことがわかりました。

表7: あなたは現在ご自分の最期の準備(いわゆる終活)をしていますか？

● 全年代の合計 (N=1,500)



● 年代別で見た結果 (各年代ともにN=250)

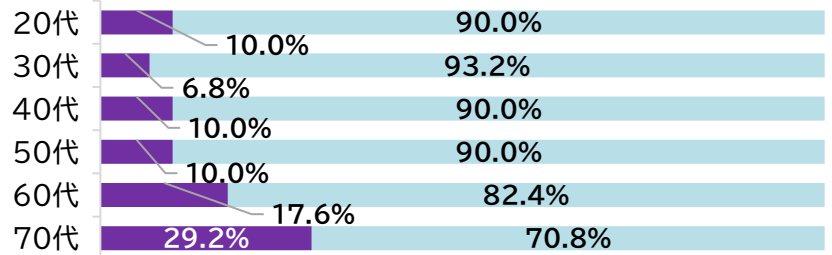


表8: あなたが、いわゆる終活を始めたきっかけは何ですか？ (複数回答)

周囲への配慮が
うかがえる

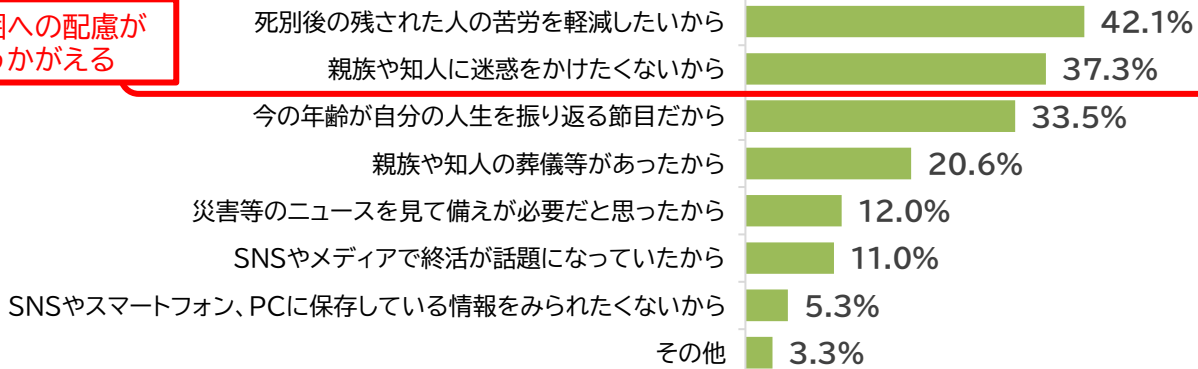
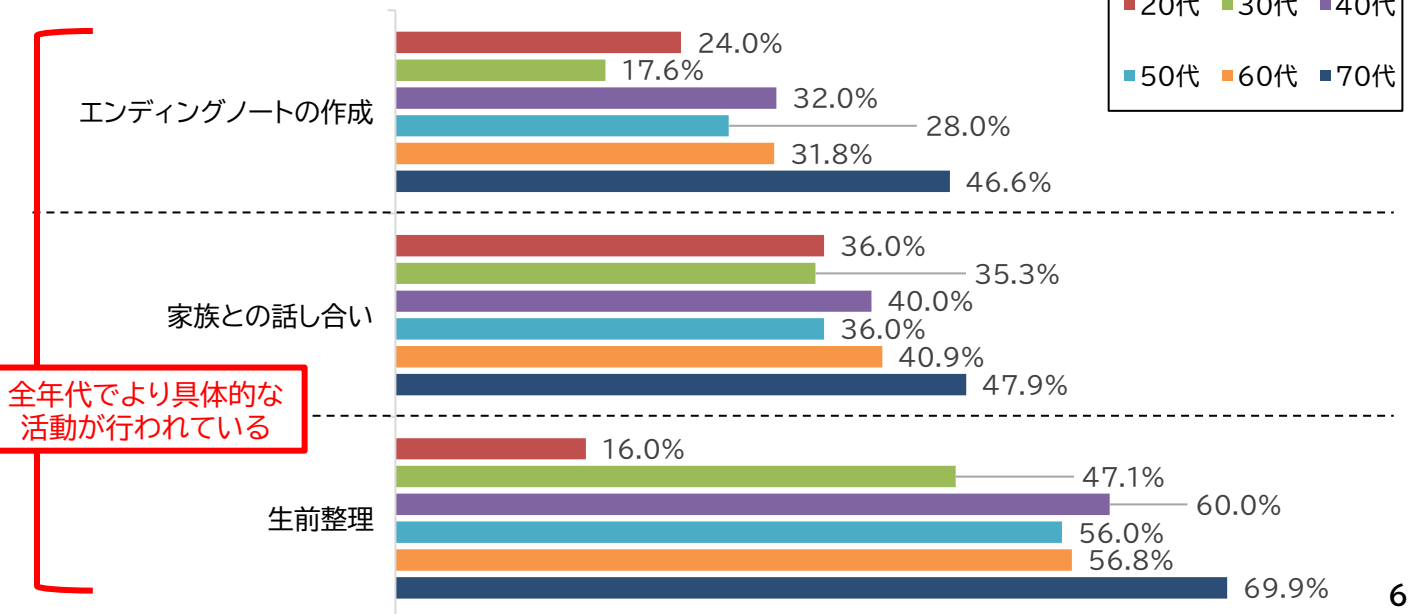


表9: あなたが現在している、ご自分の最期の準備(いわゆる終活)は何ですか？ (複数回答)

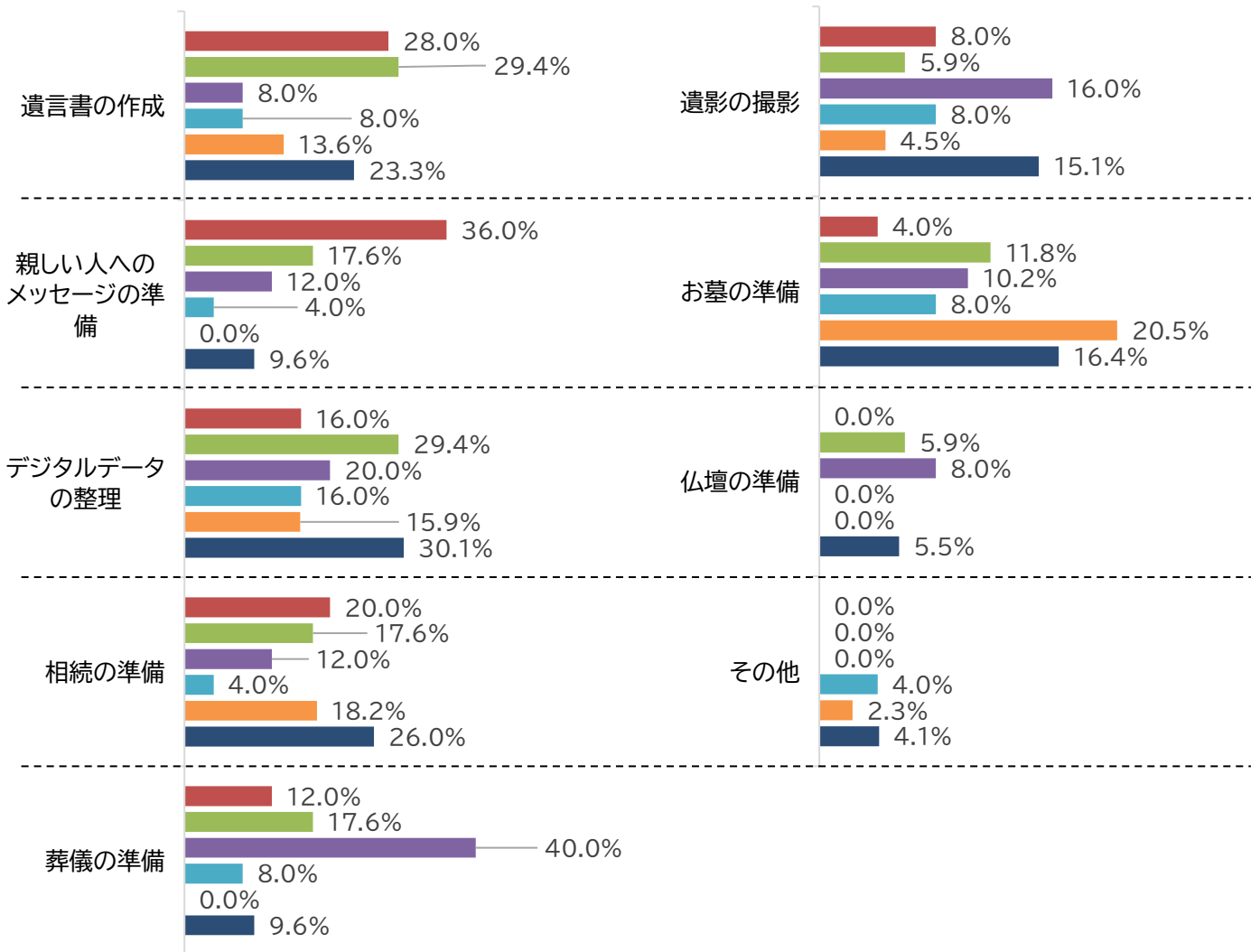
● 年代別で見た結果

※少数回答の「その他」はグラフに記載せず



全年代でより具体的な
活動が行われている

● 年代別で見た結果の続き



調査概要	
調査対象	20代～70代の男女
調査地域	全国
調査方法	インターネットリサーチ
調査時期	2026年2月下旬
サンプル数	1,500サンプル(20代～70代・各年代250名(男女各125名))

<株式会社ティア 会社概要>

本 社 愛知県名古屋市北区黒川本通3丁目35番地1
 代 表 者 代表取締役社長 富安 徳久(トミヤス ノリヒサ)
 設 立 1997年7月
 資 本 金 18億9,500万円(2025年9月末現在)
 上 場 市 場 東京証券取引所 スタンダード市場、名古屋証券取引所 プレミア市場
 従 業 員 数 971名(2025年9月末現在)
 事 業 内 容 葬儀・法要事業、フランチャイズ事業、不動産事業
 会 館 数 224会館(2026年4月現在)